

しょうだ かずえ  
**勝田 主計** (1869~1948)



県人初の国務大臣。松山城下(現、松山市)出身。愛媛県松山中学校(現、県立松山東高等学校)在学中は、正岡子規や秋山真之らと親交があり、明治19(1886)年に東京の第一高等中学校(現、東京大学)へ進学してからは常盤会寄宿舍で子規らとともに生活し、野球や俳句に親しんだ。

帝国大学法科大学(現、東京大学)卒業後、大蔵省に入省。日露戦争後の公債の整理にあたったほか、東洋拓殖会社、韓国銀行(後、朝鮮銀行に改称)の設立など対外的な仕事に従事した。退官後、貴族院議員に勅選され、大正4(1915)年12月から大正5(1916)年10月まで朝鮮銀行総裁を務め、同年12月に県人初の国務大臣として寺内正毅内閣で大蔵大臣に就任した。その後、清浦奎吾内閣で再度大蔵大臣、田中義一内閣で文部大臣に就任した。

主計は、大蔵官僚出身で三度大臣になる特殊な経歴をもったが、朝鮮銀行総裁も含め、いずれも時の責任者の強い要請でその職に就いている。そのため在任中に手掛けた仕事は多く、大蔵大臣であったとき、強力な日中提携関係構築のため清国への積極財政の展開(西原借款)や、関東大震災後の復興のための外債発行などを手掛けた。

## 略歴

明治2(1869)年9月15日	松山城下の御宝町に松山藩士・勝田久廉の五男として生まれる。
明治16(1883)年	愛媛県松山中学校を卒業。在学中に、正岡子規・秋山真之らと親交を深める。
明治28(1895)年7月	帝国大学法科大学を卒業して、大蔵省に入る。
明治34(1901)年	2年間ヨーロッパに派遣される。
明治36(1903)年10月	国債課長に就任
明治38(1905)年11月	臨時国債整理局設置により第一課長に就任
明治40(1907)年5月	理財局長に就任
大正元(1912)年12月	大蔵次官に就任
大正3(1914)年	貴族院議員に勅選
大正4(1915)年12月	朝鮮銀行総裁に就任(同5年10月まで)
大正5(1916)年12月	寺内正毅内閣において、愛媛県人初の国務大臣として大蔵大臣に就任
大正13(1924)年1月	清浦奎吾内閣において、再度大蔵大臣に就任 前年発生した関東大震災からの復興にあたる。
昭和3(1928)年5月	田中義一内閣において、文部大臣に就任
昭和23(1948)年10月10日	80歳で永眠

(肖像画：愛媛県立松山東高等学校蔵)

### 〈関連図書〉

- ・勝田竜夫『中国借款と勝田主計』ダイヤモンド社 1972年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』愛媛県 1989年

〈主な収蔵資料〉…(P203, 39~40)

〈ゆかりのある場所〉…(P277, 53)